

## 臨床試験概要

### 課題名

非定型奇形腫様ラブドイド腫瘍に対して強化髄注短期決戦型化学療法とチオテパ/メルファラン大量化学療法後に遅延放射線治療を行う集学的治療レジメンの安全性と有効性を検討する第Ⅱ相試験

(JCCG AT20)

#### 1. 研究代表者(氏名、施設)

原 純一、大阪市立総合医療センター

#### 2. 研究事務局(氏名、施設)

山崎夏維、大阪市立総合医療センター

#### 3. 目的

- ・頻回の髄注化学療法と大量化学療法を含む独自の集学的治療を行う事で ATRT の治療成績の向上を計る

#### 4. 背景

非定型奇形腫様ラブドイド腫瘍 (Atypical teratoid rhabdoid tumor, ATRT) は SMARCB1 (hSNF5, INI1) 遺伝子の機能喪失を特徴とした極めて悪性度の高い脳腫瘍で、小児脳腫瘍全体の約 2%とまれな疾患であるが、3歳未満の悪性脳腫瘍では最多であり、標準治療は確立していない。希少疾患の治療成績向上のためには統一プロトコルによる治療が重要であり、過去の知見に基づいた新規治療法を設定し、その安全性と有効性を検討する第2相試験を計画した。

#### 5. 対象

21歳未満で診断されたの初発 ATRT

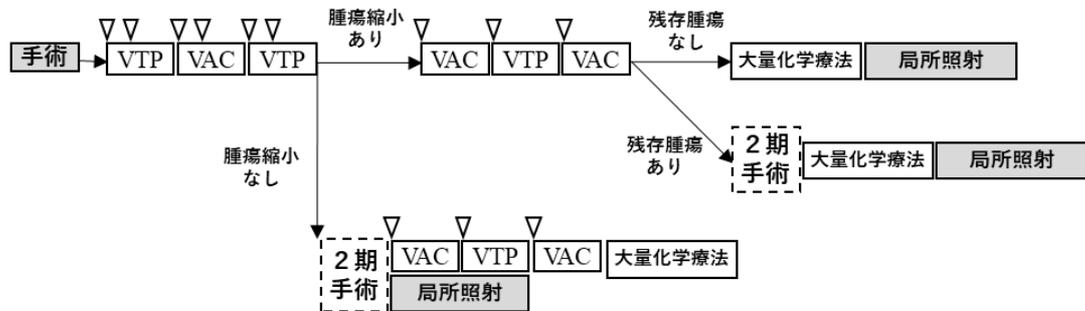
#### 6. 試験デザイン

第2相試験

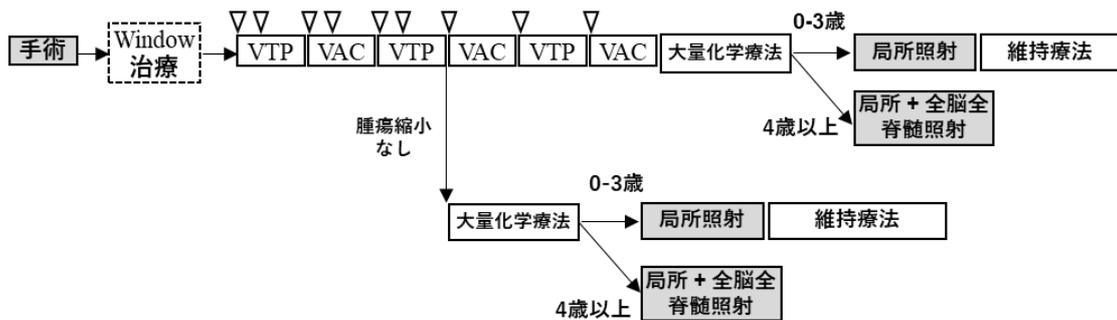
## 7. 治療

### <AT20治療概要>

標準リスク：転移なし



高リスク：転移あり



## 8. 予定登録数と研究期間

予定登録数：50例

登録期間：5年

観察期間：3年

総研究期間：8年

## 9. 問い合わせ先

大阪市立総合医療センター 小児血液腫瘍科 山崎夏維 06-6929-1221